

第13回 京都府がん医療戦略推進会議の開催概要

1 日時

令和5年9月1日（金）午後1時30分から午後15時00分まで

2 場所

WEBによる会議

3 出席団体

＜がん診療連携拠点病院＞

京都府立医科大学附属病院
京都大学医学部附属病院
京都第二赤十字病院
京都市立病院
京都第一赤十字病院
京都医療センター
京都桂病院
宇治徳洲会病院
京都岡本記念病院
市立福知山市民病院
京都府立医科大学附属北部医療センター

＜地域がん診療病院＞

京都山城総合医療センター
京都中部総合医療センター

＜京都府がん診療連携病院＞

舞鶴医療センター

＜関係団体＞

京都府医師会
京都府病院協会
京都府私立病院協会

＜オブザーバー：京都府がん診療推進病院＞

三菱京都病院
京都済生会病院
洛和会音羽病院
武田総合病院
京都鞍馬口医療センター
京都民医連中央病院
綾部市立病院

＜京都府＞

4 議題

- (1) 地域がん拠点病院等指定の状況
- (2) 各部会における現状等報告
- (3) 京都府がん医療戦略推進会議の運営について

5 議事概要・主な意見

(1) 地域がん拠点病院等指定の状況

- ・令和5年4月1日からの府内におけるがん診療連携拠点病院等の指定状況を報告
- ・一部条件付きの1年更新となった医療機関もあるが、全医療施設の指定が更新された

(2) 各部会における現状等報告

【外来化学療法部会】

- ・がん診療連携拠点病院等の外来化学療法の均てん化、外来環境に関する情報共有及び意見交換を目標
- ・令和4年度の活動回数3回の内2回は緩和ケア部会との合同開催
- ・緩和ケア部会との合同開催については、コロナ禍において、化学療法を実施している施設から緩和ケアに患者を紹介する際、クラスター発生等により施設が封鎖されている状況もあり、緩和ケア部会との連携を強化
- ・化学療法と緩和ケアの連携強化に向けた情報共有や、京都府民への情報提供についての議論を実施
- ・化学療法部会と緩和ケア部会の合同会議により、緩和ケアに紹介する際の間診票の共通フォーマットを作成・試作運用、迅速に患者を紹介できる体制の必要性、緩和ケア環境に関係する人材育成についての議論等を実施
- ・化学療法は外来に限られた治療ではないので、部会名を「化学療法部会」へ変更したい

【緩和ケア部会】

- ・がん患者やその家族が質の高い療養生活を送ることができる緩和ケア体制の強化として、医師や看護師等に対する研修の充実、緩和ケア病棟ホスピスとの情報共有による緩和ケア体制の強化、府民に向けた緩和ケアに関する情報の提供が活動目標
- ・令和4年度の活動回数3回の内2回は外来化学療法部会との合同開催と、E L N E Cに関わる意見交換会を2回開催
- ・化学療法部会と緩和ケア部会の合同会議により、緩和ケアに紹介する際の間診票の共通フォーマットを作成しパイロット的に活用
- ・人材や医療の質の地域間格差の解消が課題
- ・ACPについての議論も進めており、部会において情報交換を実施
- ・緩和ケアの施設は、がん診療連携拠点病院に指定されていない病院が多く、本会に所属していない医療機関との連携が必要となるため、本会に紐付ける形での連

携が必要

- ・共通の問診票フォーマットについては、活用についての課題等についてアンケートを実施し、今後議論を行う予定

【研修部会】

- ・「各拠点病院のがん研修情報の収集と共有化」、「がん研修動画提供によるがん医療の質の向上及び均てん化」、「京都府ホームページへの掲載による府民への啓蒙活動」が活動目標
- ・令和4年度は2月に部会を開催。各医療機関のがん研修計画をとりまとめ、ホームページに掲載した他、がん研修のテーマについてアンケートを実施
- ・部会参画者に向けたがん研修動画の共有化と国が示すがん診療連携拠点病院等の整備に係る指針に則ったがん研修の確立が課題

【相談支援部会】

- ・がんに関する相談は多岐にわたるが、がん相談支援センターを運営する相談員等のマンパワーが不十分
- ・施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、相談支援体制の機能強化に向けた取り組み、相談支援の質向上に向けた研修会の企画・運営が活動目標。
- ・令和4年度は部会を3回開催し、令和4年8月に改正された国が示すがん診療連携拠点病院等の整備指針に記載項目についての協議や、がん相談支援センターのPDCAチェックリストの実施等について情報交換を実施及びがん相談員のための相談支援マニュアル、京都府がん情報ガイドの改訂を京都府と共同で実施
- ・がん相談支援センターで取り組むピアランスケアに関する対応の整理が課題
- ・コロナ禍での院内サロンピアサポート事業については、集団で行う支援活動となるため実施困難な状況
- ・ピアサポーターの養成講座を年1回開催しているが、養成されたピアサポーターが活動する場をピアサポーター本人が開拓してくことや、ピアサポーターの高齢化などにより院内サロンの継続運営についての課題があげられる

【院内がん登録部会】

- ・研修及びセミナーを開催し、人材育成、がん登録推進に取り組んでいる
- ・令和4年度の活動状況は5回。研修会、がん登録の二次利用推進に向けた周知を実施
- ・がん登録の認定、研修会の実施、開催手法については柔軟に対応予定

【地域連携部会】

- ・現在治療中の患者へのサポートを切れ目無く行う体制整備に向けた病院・病診など医療機関との連携強化が活動目標
- ・令和3年度の地域連携手帳の活用状況のデータ集計は完了しており、消化器がんの術後は適応件数が多いものの、進行期のがん患者については利用が少ない
- ・連携先医療機関の把握や地域連携手帳の活用推進、地域連携に向けた活用が必要

- ・複数病院にかかるよりも、がん治療を受けている病院にかかることを希望する患者が多く、手帳を活用しづらいことや、手帳の記載内容も情報が不足しているなど、検討すべき事項が多い
- ・患者に対する支持療法については、遠方のがん治療を受けた医療機関ではなく、近隣の医療機関においても十分に対応できる場合があり、病院間の連携がスムーズになるよう、紹介状などのフォーマットの統一などを検討する必要がある

(3) 京都府がん医療戦略推進会議の運営について

- ・令和4年8月1日に改正された、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」にがん医療戦略推進会議において「感染症のまん延や災害等の状況においてもがん医療を提供する体制に向けた医療圏におけるBCPについて議論を行うこと」が示されたため、今後のがん医療戦略推進会議における議論方法等について協議。
- ・各拠点病院等において、災害時等に備えたBCPは策定しているが、がん診療等に特化したBCPは策定していない。
- ・次年度以降、BCPに関連する項目について、各拠点病院等の状況を共有し、議論を行う。

以上